

地域包括ケア取組状況 について



山添村

1. 山添村の現状について

●高齢者人口・高齢化率・将来推計

	2016年 4月1日現在	2025年(推 計)
総人口	3,787人	2,976人
65歳以上 (割合)	1,599人 (42.2%)	1,510人 (50.7%)
75歳以上 (割合)	902人 (23.8%)	873 (29.3%)

●世帯の状況

	2016年 4月1日現在	割合
総世帯数	1,349世帯	
高齢者を含む世帯	1,034世帯	77%
高齢者独居世帯数	133世帯	10%
高齢者夫婦世帯数	123世帯	9%

●要介護認定者数・認定率

	2016年 4月1日現在	割合
65歳以上	287人	17.9%
65~74歳	30人	4.3%

山添村は奈良県の東北端、いわゆる大和高原と呼ばれる地域の一角にあります。

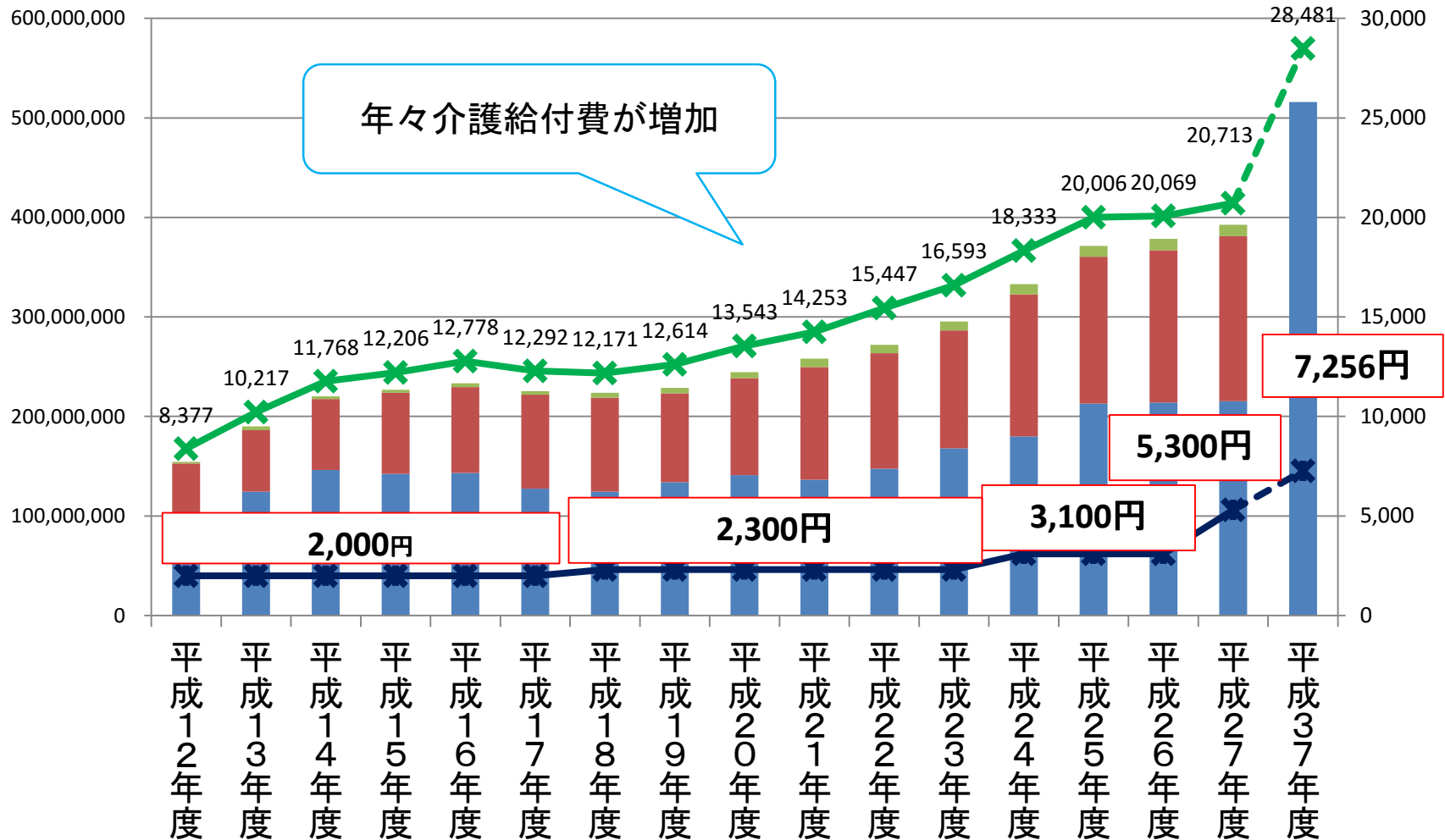
《地域の特徴》

- 各大字(30集落)単位で自治会を組織
- 老人クラブの加入率が77%と高い。
- 17ヶ大字でサロン活動実施
- 村内の居宅介護サービス事業所(訪問・通所)は、社会福祉協議会のみ

地域のつながりは強く、隣近所の見守り・助け合いが行われているが、高齢化の進展や高齢者世帯の増加に伴い在宅生活の継続が困難になることが予測される。

介護給付費及び保険料基準額の推移

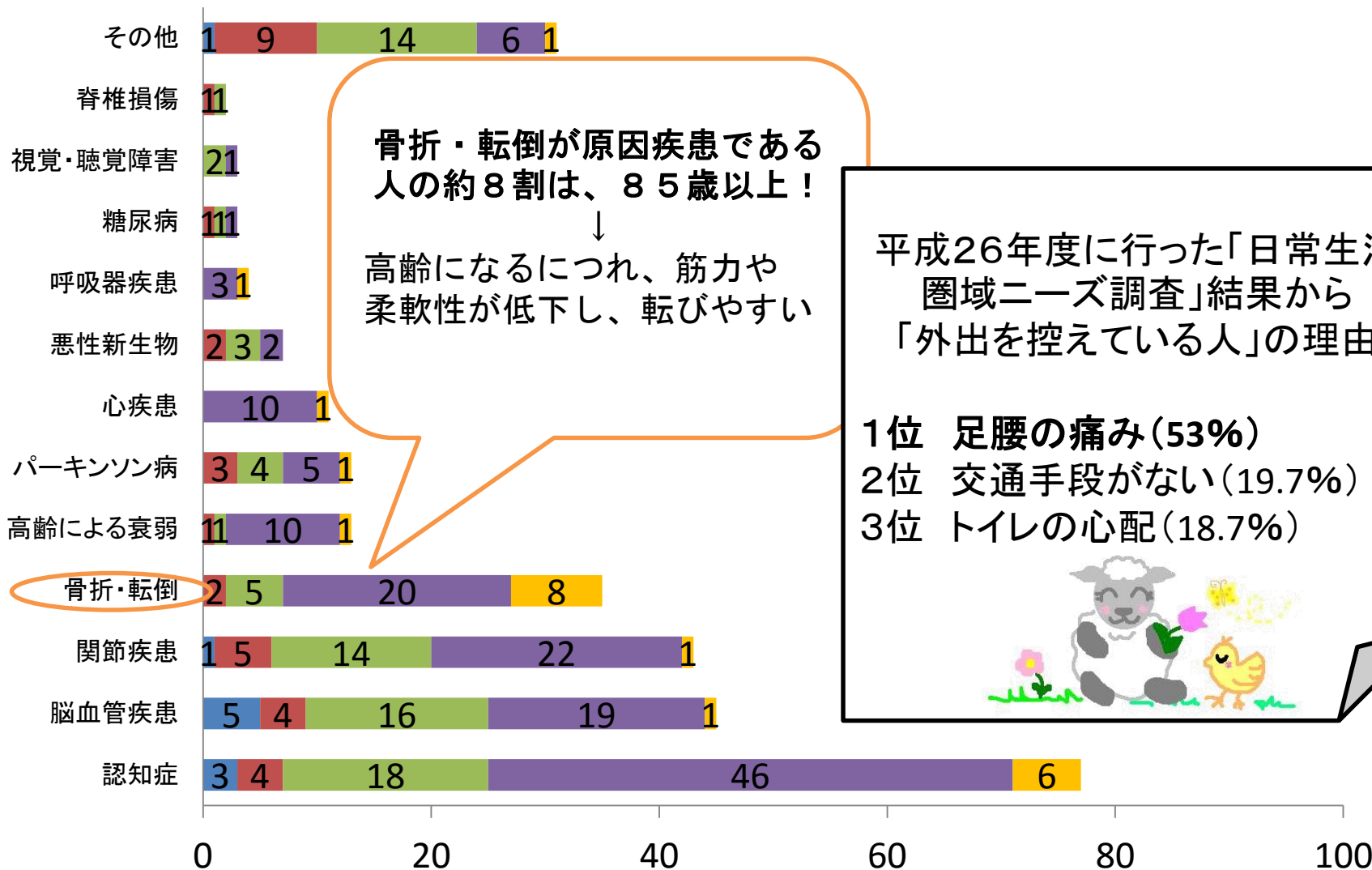
(円) ■ 施設サービス費 ■ 居宅サービス費 ■ その他償還払い
 ✕ 月1人当たり給付費 ✕ 保険料基準額



介護が必要となった主な原因別年齢割合 (H27.9.30現在)

(被保険者数1,583人 認定者数287人 要介護認定率18.1%)

■ 64以下 ■ 65～74 ■ 75～84 ■ 85～94 ■ 95以上



骨折・転倒が原因疾患である人の約8割は、85歳以上！

↓
高齢になるにつれ、筋力や柔軟性が低下し、転びやすい

平成26年度に行った「日常生活圏域ニーズ調査」結果から「外出を控えている人」の理由

- 1位 足腰の痛み(53%)
- 2位 交通手段がない(19.7%)
- 3位 トイレの心配(18.7%)



2. 平成28年度地域包括ケアシステムの構成要素充実に向けた取組について

〈事業目的〉

介護予防に関する知識の普及を図るとともに、住民主体による介護予防に向けた取り組みを支援することで、「通いの場」が継続的に拡大していくような地域づくりを推進する。

また、通いの場が、地域住民の交流や情報交換、互いの見守りにつながる場として、高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らし続けることができる「地域包括ケアシステム」の構築に資することを目的とする。

〈事業内容〉

- 住民が主体となって、地域の集会所などで週1回の体操教室を実施する。
- 介護認定の有無や身体状況にかかわらず、地域住民が集いながら介護予防に取り組む。
- 運動指導士(委託)による指導・助言を行う。



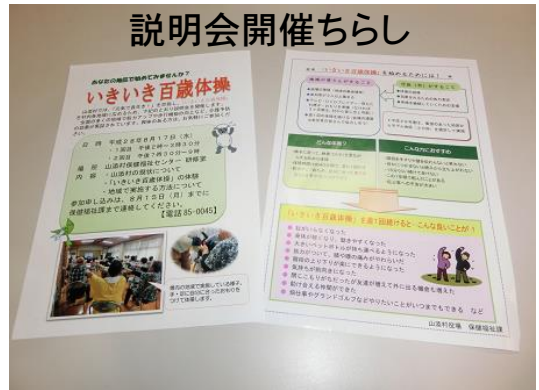
〈当初計画〉

6月	先進地視察
7月～8月	対象地区の選定準備
9月	運動指導士との連携・部局横断的検討体制整備
8月～9月	地域住民への説明会等周知
9月～10月	住民主体による体操教室を実施
2月	事業評価



〈実施状況〉

- 5月 20日 課内会議〔事業内容の共有〕
- 31日 香芝市へ視察
- 7月 6日 課内会議〔モデル地区選定方法及び説明会実施について〕
- 20日 村広報紙で「いきいき百歳体操」説明会開催についての周知
- 8月 17日 住民向け説明会開催
- 24日 広代地区 体操体験(環境が整わず実施に至らず)
- 9月 3日～ 下津地区・北野(腰越)地区で体操開始
- 10月 5日～ 毛原地区で体操開始
- 11月18日～ 手話サークルで体操開始
- 24日 勝原サロンでの説明会開催(体操開始予定)
- 12月 9日～ 北野(奥)地区で体操開始



〈実施地区及び実施者数〉 (平成28年12月末現在)

下津:5人 北野(腰越):7人 毛原:20人 手話:7人 北野(奥):8人
 合計47人(高齢者人口の2.9%) 今後の実施予定 勝原



〈体力測定〉

実施時期:初回及び3ヶ月後・6ヶ月後・1年後・その後は6ヶ月に1回程度
 測定項目:握力・タイムアップアンドゴー・5メートル歩行・開眼片足立ち・椅座位前屈・
 30秒椅子立ち上がりテスト・身長(1回目のみ)・体重・体脂肪・血圧測定

〈運動指導〉 体力測定結果説明時に運動指導士(委託)が行う

3. 工夫した点

- 介護予防担当保健師・地域包括支援センター担当職員による打ち合わせを行い意思統一を図った。
- 保健師だけではなく、事務職員もいきいき百歳体操についての説明を行い、地域の要望にタイムリーに対応できるよう体制を整えた。
- 夜間や休日実施の地区にも対応した。
- 体操の説明会を開催するにあたり、地域での協力が得やすいよう大字区長や老人クラブ役員など地域代表者にも協力を要請した。
- 実施地区には、体力測定や運動指導士による体操指導を行い継続意欲を高める支援を行っている。
- 実施体制が整うまでの間(3ヶ月間)は、貸し出し物品を用意した。
おもり・パイプ椅子・足マット・DVDプレイヤー
- おもりを2種類用意し、実際に体験した後に個人購入できるようにした。
200g×6本(1個:約2,000円)→身体能力に応じて調整できる
※体操効果を高めるため推奨している
250gのおもり(1個:100円)→安価で購入



4. 取組における課題・困難であった点・反省点

○住民説明会の参加者(リーダー的な存在)に事業の趣旨や効果を理解していただいても、実際に地域に出向いて住民に体験してもらわないと「やりたい」、「やってみよう」という思いは広がりにくい。

○会場の確保(地域の集会所は畳の部屋が多い)や物品(パイプ椅子やDVDプレイヤーなど)の調達見通しが立たなければ、実施に向けた協議が進みにくい。(村からは長期間の貸し出しができない)

○特に参加を促したい虚弱高齢者(要支援レベル)の参加が進みにくい。
→ 会場まで自力で来ることが困難。
百歳体操に興味を持つ年代が前期高齢者に多かった。

○職員体制や業務量の問題もあり、多くの地区から一度に希望を出されても十分な対応ができない実情がある。

5. 今年度を実施した取組の次年度の展開方針

○実施地区に対する取組

- ・定期的な体力測定による効果検証・体操の継続支援
- ・参加者を増やすための周知啓発

○未実施地区に対する取組

- ・村内の実施状況や効果などについて広く啓発
- ・住民向け説明会の開催

